

地域まちづくりアドバイザー大集合！

まちづくりお悩み相談・交流会

名古屋都市センターが行うまちづくりの支援メニューのひとつ「地域まちづくりアドバイザー派遣」。まちづくりに関する経験や知識が豊富な専門家「地域まちづくりアドバイザー」（以下“アドバイザー”という）を、まちづくり団体へ派遣し、団体が抱える悩みや困りごとについて、専門知識を活かしたアドバイスで活動をサポートします。今回、アドバイザーのみなさんを9名、さらにファシリテーターとして、名古屋のまちづくりに長年携わっている古橋敬一さん・吉村輝彦さんの2名をお招きして、トークイベントと、アドバイザーへ実際に相談ができる交流会を開催しました！

第一部 アドバイザートーク

アドバイザーたちが2つのグループに分かれ、それぞれ「組織づくり・コミュニティ」と「公共空間活用」という異なるテーマで自己紹介&トークをしました。

組織づくり・コミュニティ

ファシリテーター：古橋 敬一さん
(愛知学泉短期大学講師)

●アドバイザーのみなさん

まちづくりコンサルタント。専門は建築の他、コミュニティづくりや合意形成なども。仕事でもライフワークでも、地域のコミュニティにどっぷり漬かっています。思い出深いのは、サポートしていた活動が、地域の中で関係が出来上がることで自主的に動いていくようになったこと。まさにまちづくりの醍醐味です！

Web・グラフィックデザイナー。チラシやHP・SNSでの情報発信などでお役にたてます。高校時代はヒップホップにはまりラッパーとしても活動。ヒップホップは“地元のある奴がかっこいい”音楽です！最近、無くなった地元のお祭りを地域の仲間と復活させました。活動の中で学区の方々や新しい若手メンバーの関係づくりが進んでいます。

地域情報誌編集長。編集の仕事で、ずーっと東海エリアのまちづくりを見てきました。リビング新聞の特徴は読者巻き込み型なところ。その点でコミュニケーションは常に重要な要素です。メディアに活動をPR・アピールするコツはなんでも聞いてください。ちなみに熟女アイドルもやっていますよ！

中小企業診断士。まちづくりでは、お店を開きたい人の創業支援をしたり、空き店舗の活用のワークショップに関わったりしています。同じ地域でも、人によってその見え方は様々です。なんてことないことも、面白がると新しい輪が広がります。固く構えずに楽しんでやるのがポイントです。休日はラテンアメリカ音楽を嗜んでいます！



葛山 稔晃さん



鈴木 瑛司さん



中島 幸子さん



遠藤 久志さん

みなさんの専門や経歴だけでなく、趣味や人柄も分かり、参加者とアドバイザーとの距離が縮まりました。

「あのアドバイザーに相談してみたい！」「さっきの話を続きを聞いてみたい！」など、いろいろな気持ちが生まれたところで、次はいよいよ実際にお悩み相談です。

公共空間活用

ファシリテーター：吉村 輝彦さん
(日本福祉大学国際福祉開発学部教授)

●アドバイザーのみなさん

まちづくりコンサルタント。都市計画から町内会のようなソフトなまちづくりまで関わっています。もともとは緑地の保全に関心があり、そこからNPOの活動や市民活動にも参加していました。町内会は地域の縁、緑地の保全はテーマで集まった志の縁。どちらの活動も面白いです。竹とんぼの会の会長もやっていますよ！

市職員を辞め水辺のまちづくりを行う会社を設立。堀川、SUP大好きです！経歴を生かして、行政との協働や手続きのお手伝いができますよ。カブトビールを知っていますか？復刻された半田のビールで、かつて納屋橋に支店がありました。「納屋橋にもう一度！」と熱い想いを伝えた人がいて、今も飲めるようになっています。人と人が繋がって生まれた新しいまちの魅力です。

まちづくりコンサルタント。建築設計を中心に、再開発や建替え、商店街のリノベーションなどに携わっています。全国のそうした事例をご紹介しますよ。ハードの仕事が多いですが、公共空間を実際どうやって活用するかと考えると、組織づくりや人づくりなど、ソフトも大事。悩みを聞きながら、みなさんと一緒に考えていきます。

まちづくりコンサルタント。吹奏楽をずっと続けています。地域イベントでの演奏や、老人ホームで指揮をふるなどの経験を通じ、地域の中で何かする意義や喜びを知りました。会社でも地域のまちづくりを進めていくことになり、音楽でのまちづくりを提案してきました。千種区の「やまのて音楽祭」が代表例です。仕事はハード中心ですが、同時にソフトのことも得意ですよ。

まちづくりコンサルタント。22年間まちづくりのサポートを行ってきました。各地域でコミュニティや地域自治のお手伝いをしていますが、いずれもメンバーの高齢化や担い手不足という状況を、どう持続可能にしていかがが課題です。市民活動を自分でもやっていますので、みなさんと同じ目線で一緒に考えていけるといいと思います。



藤森 幹人さん



井村 美里さん



松井 宏充さん



川本 直義さん



池田 哲也さん

第二部 相談・交流タイム

アドバイザーたちが4つのブースに分かれ、参加者の方々のお悩みを聞きました。お悩みとその回答、さらに相談終了後のアドバイザーのみなさんのお話をまとめました。

コミュニティ

Q. 新しい人が会に入ってこないんだけど…

A. 回覧板に掲載していても、実際見ている人は少ないもの。結局は、地域の口コミや、友達の友達など、会の活動を知っている人の周囲から人を集めてくるのが近道かも。なかなか不特定多数に訴えても難しいですから、参加してほしい人を具体的に思い描いてみてください。

大切なのは、いかにたくさんの人を集めるかではなく、活動の本当の想いを伝えること。まずはあなたと同じ気持ちの人を3人でいいから集めること。それに加えて、何か手伝ってもいいよという人を10人集める。10人は完全に思いを共有していなくても、だんだん分かってくればいいのです。つながりをつくるステップがとても大切です。

みなさんに共通しているのは、若い人にもっと参加してほしいというお悩み。今の30~40代は子育て世代で共働きだし、前の世代の頃とは様子が変わってきている。それを受け止めながら、昔と同じようにはではなくて、若い世代でも無理なく参加できるかわり方を考えて寄り添っていきけるといいんじゃないかな。10年それを続ければ、子育てが終わった人たちも一緒に肩を並べられる。



藤森さん



池田さん

どうすればボトムアップで活動が盛り上がっていくか。実は若い世代もまちなに関心があるんだけど、そこにうまく働きかけができていないことが多い。興味があっても、いきなり参加してくださいと言われてるとちょっと怖い。「この活動の、この部分を手伝ってください！」みたいに具体的に呼びかければ、それならいいよという方々も出てくるんじゃないか。

開発・公共空間

テーマ的にも「行政にどう聞いたらいいか？行政を巻き込むには？」という質問が多かったように感じる。そのためは、地元をまとめる必要がある。行政と話し合うために今の悩みや課題をどうまとめればいいのか、というのがみなさんの共通の課題なのかな。



松井さん

個人の思いだけでは難しいから、団体や地域と一緒に大きくしていく。地域のキーパーソンを見つけることでつながっていくこともある。課題を整理して、どんなまちにしたいか考えていくことが大切です。名古屋都市センターの助成金も使えるかもしれませんね。



川本さん

行政から見ると、一人の勝手な思いではなく、みんながそう思っていると分かること、あるいはそれが構想のような形になっている状況が重要。地域が一丸となる、思いを共有する、それを見える形にするというステップを踏めるといいですね。



井村さん

Q. 地域の公園を使ってみたいんだけど…

A. まずは管理をしている区の土木事務所に相談してみてもいいでしょう。また、公園には管理を認められた愛護会がある場合もあります。公園の使用と愛護会の活動は異なるものですが、まずは愛護会に話を聞いてみたり、活動を手伝ったりしてみてもいい。そこから情報を得られる可能性もありますね。

名古屋市が昨年「Nagoyaまちなかオープンスペース制度」を創設しました。それがすぐに活用できるかは分かりませんが、そうした行政の施策と自分たちの活動を結び付け、話のきっかけとすることで行政も話を聞きやすくなるかもしれません。

仲間を集めていくのが大切。それぞれが個人で考えていても活動は止まってしまう。その地域で活動している団体がすでにあるかもしれません。そこに話を聞きにいたり、講演会に参加してみたり。あなたの思いを、地域の思いにしていけると何か動き出すかも。

経営・組織体制

Q. 組織をどう広げていけばいいんだろう…

A. 相談者さんの地域はどうやら企業・商店が多い様子。「まちをきれいにするために清掃活動しませんか？」と打診してみても、企業であればNOと突っぱねられることも少ないはず。その中で熱心な人を探しつつ、巻き込んでいければ、活動もより充実していきそうです。



葛山さん

みなさん少子化と高齢化の問題を抱えている。寂れた商店街、住宅、空き家などをなんとかしたいという想いで、活用の仕方を相談してくれた。中には防災面からエリアを面的に整備したいという話も。長期的に考えていく事業と今できる短期の事業、同時並行で行うのは難しいが、そこを整理して考えられるといいと思う。

Q. 活動資金をどう集めたらいいんだろう…

A. 地域に企業・法人が多いのであれば、会費をいただくこともできるのでは。一方で、誰から、どこまで会費を取るのかなど、検討の余地も大きいです。大枠の仕組みを考えた上で改めて相談に来ていただければ、より細部まで検討しながらのアドバイスができると思いますよ。



遠藤さん

お悩みを聞いていると、地域の特性が全く違う。住民のいない都心部もあれば、静かな住宅地もある。それぞれの地域の歴史や魅力は、その地域に住んでいる人たち自身では気づけないことも多い。そこは我々が引き出すのをお手伝いできるところ。魅力に気づくと更なる可能性が見えてくるはず。

広報・PR

Q. イベントの参加者が少なくて…

A. 相談者さんの地域は、子育て世代も多いはず。であれば、ママさんのネットワークは強いです。口コミはもちろん、Instagramを見ている世代でもあります。会の内部にそうした方を引き込んで、情報発信を手伝ってもらえると一層心強いですね。



中島さん

お悩みを聞いていて実感するのは、今はみんな回覧板を見ない時代だということ。一人暮らしのマンションではもはや届きもしない。じゃあ次に来るツールは一体何かと考えなくてはいけない。一つはSNSだが、お年寄りにはなかなか親しみづらいという難しさも。みんなで工夫していく必要のある課題です。

Q. 回覧板やSNS以外に何ができるかな…

A. 活動を知ってもらうには、一緒に何かすることはすごく大事です。中でもお祭りはばっちり。地域の歴史も引き継げるし、多くの人に関わりやすく、いろんな人・団体と繋がれます。いきなりが難しければ、お金を使わずにできることから考えてみてもよいですね。



鈴木さん

若い世代が参加してくれないというのがみなさん共通のお悩み。若い世代でも、まちに興味がある・地元が好きという若者が絶対にいる。その人をどう発掘してくかというのが課題。誰にでも地域の横のつながりがあるはず。知り合いのお子さんやご家族に直接活動をPRしてみると、見つかるかもしれません。



全体まとめ

会の最後にファシリテーターのお二人からお話をいただきました。



古橋さん

今回相談に来てくれたみなさんが取り組んでいるのは、**世の中で起きていることの最前線、1番難しい問題です**。まちづくりの現場には、行政が政策化する手前の小さな社会問題が山積みです。今の時代は過渡期で、みんなが社会を動かすことに精一杯で足元の地域はどんどん手薄になっている。そこを皆さんが頑張ってくださっているのだと思いました。

今日皆さんの話を聞いていると「これを悩んでいるんです」とおっしゃるものの、**実は本当の課題は別のところにあったり、じっくり時間をかけるべきものに対処的に取り組んでしまっていたり…**。広報は、HPやSNSだけではなくて、自分の友達や家族の中に使える口コミがあたりなんて身近なことが意外と見えなくなっている。アドバイザーの仕事は、その視野を広げたり、皆さんならではの解決方法を見つけるお手伝い。まちづくりの主人公は皆さんです。皆さんの現場で「もっとこうしたい、こんな人を紹介して」という悩みを抱いたとき、都市センターへ気軽に立ち寄ってみるといいんじゃないでしょうか？

今日一番最初に大事だと感じたのは、**いろいろな人と話すことで、自分が気づいていないことに気づくということ**。全然違う関心がある人と話すことが新しい発見につながる。今日はまさにそういう場になったのではないかと思います。こうした場が定期的にあたり、あるいはいつでも話せるような環境になるといい。

もう一つ大事なものは、自分の思い込みや、あたりまえを変えていく必要があるということ。例えば広報でいうと、今の若い人にとっては回覧板なんてないのがあたりまえ。彼らに近寄っていきたいなら、私たちが工夫しなければいけない。そもそも土台が変わっていることを前提にしないと始まらない。今は若い人がまちに無関心かということ全くそんなことはない。問題はどのような接点を作っていけるか。何に共感するかはそれぞれ全然違うが、何かひっかかればブレイクもしやすいはず。

面白ければ、勝手に人は集まる。巻き込まなくたって来たくなる。どうしたらみんなに響くのかを考えなくてはいけなし、その時にこそ、いろいろな人と話をしてみる機会が重要になってくるんじゃないでしょうか。



吉村さん

お悩みは十人十色。それでもアドバイザーと一つずつ課題を整理することで、一人では気づけなかった、さまざまな発見があったのではないのでしょうか。他の参加者の相談も聞きながら、多くの意見や価値観に触れることで、自分の「あたりまえ」を変える機会になったかもしれません。

感想を聞くと、「**最初は悩みなんてないと思っていたけど、相談することばかりだと気づきました。まだまだ聞き足りません！**」とお話ししてくれた方もいました。第三者に一步引いた目で活動を見てもらうことも、活動の発展のためには重要ですね。みなさん、ご参加ありがとうございました！



名古屋都市センターでは、本企画に登場したアドバイザーを含む、まちづくりの専門家「地域まちづくりアドバイザー」を、要件を満たしたまちづくり団体に派遣しています。

派遣をご検討の方はぜひご相談ください。